

事前評価報告書

Advisory Board Meeting 開催日：平成17年7月28, 29日

評価委員：（敬称略、アルファベット順）

Prof. Masuo Aizawa (Tokyo Institute of Technology), Prof. Fritz Aldinger (Max Planck Institute for Metals Research), Prof. Akio Etori (Edogawa University), Prof. Jean Etourneau (Institut de Chimie de la Matière Condensée de Bordeaux), Prof. Colin Humphreys (University of Cambridge), Dr. Tetsuro Ohashi (National Traffic Safety and Environment Laboratory), Dr. Leslie E. Smith (National Institute of Standards and Technology), Prof. Marcel Van de Voorde (European Commission Research), Dr. Stan Williams (Quantum Science Research, Hewlett-Packard), Prof. Hiroaki Yanagida (University of Tokyo)

課題名	ナノ物質・材料研究のための高度ナノ計測基盤技術の開発
研究責任者の所属・氏名	ナノマテリアル研究所 藤田 大介
【項目】	評価結果
コメント及びアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・このプロジェクトはNIMSの強さを上手に利用している。NIMSは過去に、これら3分野において顕著な成功を収めてきたので、本プロジェクトは成功する可能性が非常に高い。 ・SPM, TEM, NMRといった、高度な手法を用いて成し遂げられてきた従来の実績が、表面解析、内部構造（高分解3D解析）や原子配置解析（最強磁場NMR）でのこれらの手法の発展の可能性を示している。 ・この情報データベースは世界にとって非常に重要である。これはNIMSのユニークな側面であり、高い優先権を持っている。ナノプローブやNMRの開発は、それぞれ世界最高の研究活動であり、今後世界的な施設となり、また貴重な資産となると思われる。 ・超強磁場のNMRは、有機やポリマー薄膜へのおもしろい応用があると思われる。 ・シンクロトロン放射光設備による可能性も検討すべきである。 ・ナノ解析手法はナノテクノロジープロジェクトには不可欠である。国際的ネットワークを構築し、共同で研究を行うのがよい。 ・機器開発に関するプロジェクトは、企業と共同研究することが必要である。 ・本プロジェクトは研究の高いリスクを持ってはいないが、すばらしく創造的というわけではない。 ・NIMS内の卓越した領域を足場に研究を推進すべきである。 ・目標は明確になっているが、大学における基礎研究との相違をより明確にすべきである。
評価点	S, S-, A+, S-, S, S, A, A+, S, A-
総合評価点※	A+

※評価点の点数は10(S), 9(S-), 8(A+), 7(A), 6(A-), 5(B+), 4(B), 3(B-), 2(C+), 1(C)とする。総合評価点は評価委員の点数の平均点（小数点第二位以下四捨五入）をXとすると、S:X=10, S-:9≤X<10, A+:8≤X<9, A:7≤X<8, A-:6≤X<7, B+:5≤X<6, （以下同じ考え方）・・・とする。